



# News Letter



第5号

## 大阪日米協会/JAPAN-AMERICA SOCIETY OF OSAKA

〒540-8508 大阪市中央区森之宮中央1-6-20(サクラクレパス内) Tel:06-6910-5595, Fax:06-6910-8837  
http://www.jaso-1946.com E-mail:jaso@craypas.co.jp

### 能楽ワークショップ 3月11日(相生楼)

「日本のルーツを探る」というテーマで行事を計画していますが、その第4弾として、敷居が高いと思われるがちな能楽に親しむための入門編、「能楽ワークショップ」を開催しました。観世流若手能楽師による能面や能装束の説明、着付けのデモンストレーション、謡のお稽古、能舞の鑑賞。また、能楽大倉流小鼓方第16世家元の大倉源次郎氏が特別ゲストとしてご出演くださり、小鼓の幽玄な世界を演出くださいました。定員の80名をオーバーする盛況ぶりで、会員の皆さんから好評を得る事ができました。



#### 幽玄の世界が身近に

中西 正七さん(西宮市)

創業180年の相生楼で催された「能楽ワークショップ」を鑑賞するタベに参加しました。古典芸能の中で最も縁遠かった能楽を教えてくださいと、わくわくしていただきました。堅苦しく考えていた能を、若い能楽師の方々に、リラックスした雰囲気の中で、演技を交えてわかりやすく説明していただきました。豪華な能衣裳の着付けデモンストレーションのほか、小鼓や謡曲の稽古までつけていただき、幽玄の世界が身近に感じられました。能は武家文化の芸能として、貴族文化の雅楽と共に日本の文化を支えてきましたが、その伝統を受け継ぎ、次の世代に伝えるべく精進しておられる若い能楽師の方々に、心から拍手を贈りたいと思います。このタベを企画していただいた大阪日米協会の西村会長をはじめ、事務局スタッフの方々に厚くお礼申し上げます。

#### “和製ミュージカル”を楽しく鑑賞 上田 泰代さん(奈良・三郷町)

古典芸能に触れる機会が少なかった私にとって、能は「難しいもの」と思っていました。でも、今回は舞台と客席が近く、同じ高さであったため形式張らずに“和製ミュージカル”を楽しむことができました。また謡を初めて大きな声で練習したことや、小鼓の説明と観客を巻き込んだ能面・装束着付け体験などを目で見ることができ、急に能が身近になったように思います。能は「舞台の演者半分、観客半分で成り立っている」と能楽師の方が言われた通り、謡と囃し方に合わせた舞を見る過程で、私たちが想像力を豊かにもって創りあげるものなのでしょう。そういう意味で、観客の態度が大変重要であると感じました。650年間の能文化や礼節を重んじる日本のしきたりを継承されている能楽師の方々に感銘を受けました。ありがとうございました。

### 大相撲談義・大相撲観戦 3月27日

3月27日(土)、ホテル南海でカトリナ・ワッツさんによる大相撲談義をお伺いした後、大阪府立体育館に移動して、大相撲春場所を観戦しました。3年前からワッツさんをお迎えしてお話をお聞きしていますが、毎年とても好評で、今年は20名の定員をオーバーする盛況ぶりでした。ワッツさんの大相撲に対する造詣が大変深く、どうしたら相撲を楽しんで見ることができるか、とりわけ対戦の見どころや、力士の横顔など、大相撲の魅力を余すことなく教えてくださいました。そのお陰で、当日の相撲観戦は何倍も楽しく見る事ができたように思います。



### 春の遠足 ～陽明文庫・青蓮院門跡・將軍塚～ 4月9日

桜が満開に咲き誇る4月9日(土)、京都、陽明文庫・青蓮院門跡・將軍塚へ行って来ました。今回の遠足にはたくさんの方から申し込みを頂き、大型バス2台が満席になる盛況ぶりでした。最初に訪れた陽明文庫は、五摂家の筆頭に挙げられる近衛家が同家に伝わる数々の名宝を一括保存している文庫で、藤原道長自筆の「御堂関白記」をはじめ、2百年前の物とは思えない鮮やかな色彩の絵巻物等が保存されています。それらを、文庫長、名和先生の丁寧な解説を聞きながら閲覧させていただきました。昼食の後、訪問した青蓮院門跡は京都五箇室門跡のひとつに数えられ、別名を栗田御所とも言います。そこでも高木執事から概略を説明して頂き、殿舎内と優雅なお庭を探索しました。その後は、青蓮院の飛地境内である將軍塚に上り、比叡山から大阪まで270度の眼下に広がる大パノラマを満喫しました。絶好のお天気で、桜の京都を堪能した一日でした。



## スケジュール

2005年 5月14日(土)

#### 関西日英協会共催ゴルフ大会(神戸ゴルフ倶楽部)

恒例の関西日英協会との共催ゴルフ大会です。今回は関西日英協会担当で、ゴルフ発祥の地神戸ゴルフ倶楽部に於いて開催します。



昨年の参加者



昨年の優勝者

6月7日(火)

#### 劇団四季「マンマミーア」観劇会

<解説と食事>ヒルトンホテル

<観劇>大阪四季劇場

劇団四季の方による解説をお伺いした後、夕食をとり、四季劇場へ移動、観劇します。



7月22日(金)

2005年度理事会・総会・懇親会(リーガロイヤルホテル)



## サンフランシスコ市からマーク・チャンドラー国際通商貿易部長が来阪

昨年11月、サンフランシスコ市からマーク・チャンドラー国際通商貿易部長が来阪しました。大阪商工会議所が事務局を務める産業交流センターの招聘事業により実現したもので、大阪の都市魅力の強化、サンフランシスコとの相互の情報発信について、行政・経済関係者との意見交換が活発に行われました。滞在中は産業創造館にある企業家ミュージアムを訪問するとともに、なんばパークスや、国立国際美術館など、大阪の新しい都市観光施設を視察されました。大阪・サンフランシスコ姉妹都市協会では、今回のチャンドラー部長来阪の機会に、会員との交流会を開催しました。大阪YMCAや大阪産業青年クラブなど関係者も一同に会し、2007年に迎える姉妹都市提携50周年に向けた話題で、大いに盛り上がりしました。大阪・サンフランシスコ姉妹都市協会では歴史的な節目となる50周年にむけ、会員を募集しています。是非、ご参加ください。



ご連絡 事務局 大阪市姉妹都市交流協議会  
TEL:06-6772-9670 FAX:06-6772-9790  
HYPERLINK  
<http://www.sisterc.net/SanFrancisco/>

## 会員便り



アルマソフ 由美子さん  
(西宮市)

### 2004年12月26日スマトラ大津波体験記

去年のクリスマスは家族でタイのカオラックで過ごしていました。大津波のあった12月26日朝私は約50人のグループでカオラックから70kmぐらい離れた珊瑚の楽園シミラン諸島へ移動中でした。諸島が遠くに見える時、突然船長から、「島の海岸が大波で大打撃をうけました。ここで待機します。」とアナウンスがあり、我々も津波の発生などつゆ知らず、配られたバイナッブルやすいかを食べたり、船の回りで泳いだりして、まだ楽園の休暇気分を満喫していました。その内「島行きは中止」となり、波止場へ戻り出しましたが、出航した波止場の被害もひどく、そのまま海上待機、その後タイの海軍の艦に助けられて、日が暮れる直前に変り果てた波止場に戻りました。月の

光を頼りに村の中を歩き、小さいホテルに着き、たき火をし救助を待ちました。軍のトラックが到着して、近くの避難所ラムケン寺院に移動しました。寺院には地元の人とすでに沢山の外国人旅行者が避難していました。そのまゝお寺で夜を明かしましたが、その晩は夜遅くとも観光客が続々避難にお寺に入ってきました。夜11時過ぎ電話が1本設置され国内通話使用が可能になり、次の日朝から各国の観光客はそれぞれの大使館へ電話をかけ始めました。電話を待っている間、いろいろの人の話を聞きました。福岡からの親子は海辺に面したバンガローの窓から大津波見て風呂場の天井から壁に、屋根にそして隣のやしの木に掴まって難を逃れた様子を、アメリカ人夫婦はダイビングを中止して、津波の事は知らずに船でビーチに戻る時に、海に浮いていた犬や、新婚夫婦を救助して、ホテルも全壊しているのを目撃してきたと。今でも心が痛むのは避難所で一緒だった息子と同年代の欧米人兄妹の事です。息子とは同じ学校へ通っていたことを後で知りましたが、お父さんは今だに行方不明です。やっと通じた日本大使館でパスポートもチケットもお金も無しでどう出国できるか必死に事情説明しますが、日本大使館の方は事態を全く把握しておらず、「バンコックの大使館にお越し下さい」と、間の抜けたお返事。私達のいるカオラックはプーケットまで車で50分、そこからバンコックは飛行機で50分も離れていますが、どうやって行けるのでしょうか？ 昼近くには軍のバスやヨーロッパの大観光会社のバスが次々と観光客をつれて避難所を出発しました。午後には、今度は遺体が集められ列になっていきました。私達もいろいろの人に助けられホテルに行き、プーケットに着いた時は日が沈んでいました。友人が確保してくれたホテルは壮大で、数時間前の避難所生活から天と地の別世界でした。日本の家族と電話で話し、お風呂に入りテレビで初めて滞在していた海岸の被害の全貌を見て恐ろしくなりました。タイは新婚旅行へ行った懐かしい国、20年以上経って親子4人で訪れて世紀の大惨事にありました。最後の晩バンコックでカオラック脱出を助けてくれた友人が夕食の時に「またタイへ来て下さい」と言ってくれました。「またタイに来ます」と素直に言える日が早く来ますように願っております。そして、亡くなった沢山の御冥福を心よりお祈り致します。



## ペーカー前駐日大使写真展

2月16日～25日NHK大阪放送会館1階アトリウム特設会場で、写真展「憶景 ペーカー大使の日本」が開催されました。写真家としても知られる前ペーカー駐日大使が2001年7月着任以来、日本各地を訪ねた際に撮影した日本の自然や動物、風物など計37点の写真が展示されました。2月16日午後5時から開会式が行われ、大阪日米協会から稲畑勝雄元会長（稲畑産業会長）が代表でご挨拶くださいました。残念ながら、ペーカー前大使はご出席されませんでしたが、ビデオによるメッセージが届けられました。その中で、ペーカー前大使は「レンズを通して、外交官としてだけでは得られない日本を知った」と話しておられました。この写真展には1万名を上回る入場者があったそうです。



### アメリカの国立公園



宮坂 友英さん  
(アメリカ・ニューヨーク州)

アメリカの魅力を語る時に忘れてはいけないのが、皆さんにも馴染みのヨセミテ、グランドキャニオン、イエローストーンといった大自然の国立公園です。ハワイ州から始まり、アラスカ、西海岸、中西部、東海岸、フロリダ、カリビアン諸島まで、その数は50を超える国立公園があるのをご存知ですか？ それぞれが個性を持った国立公園です。長い年月をかけて自然が作り出したスケールの大きさに圧倒され、その美しさに息を呑み、野生の動物たちや、咲き乱れる花々が感動を与えてくれます。私の古いノートに、多分、20年ほど前にグランドキャニオン国立公園を訪れた際に、書き写したメモがあります。"Leave it as it is, you can not improve it. The ages have been at work on it, and man can only mar it. What you can do is keep it for your children, children's children and for all who come after you." - Theodore Roosevelt 雄大なグランドキャニオンに圧倒された後、この言葉を読みました。そして、我々に出来ることは、この素晴らしい自然を子孫に残すことと痛感させられたものです。私の米国滞在は15年以上になりますが、私が実際に訪れた国立公園はまだ10カ所にすぎません。皆さんも、訪米の際には国立公園を旅程に組み込み、是非とも大自然を満喫してください。

## 会長のひとりごと

3月9日、「能楽ワークショップ」を開催したところ、多数のご参加をいただき、ありがとうございました。お陰様で、参加された方々には好評だったようで、ホッと、しております。会員の方々のお声を聞きますと、どうも、当日の演者が若くてかわいいという事が大きな要素だったようです。また、大相撲観戦では、ワッツさんが「大相撲は宗教である」と指摘されましたが、相撲に対する認識を改めさせられたような気がします。このように、いろいろな行事に参加して、皆様とお話をさせていただく中で勉強させられることが多いです。これも、会長の役得ではないかと思っています。



## 会報誌について

### <日程計画>

発行	編集会議	原稿締め切り
偶数月月末 ex) 4月28日	偶数月月初 ex) 4月8日	奇数月20日頃 ex) 3月22日

### <原稿について>

原稿締切：掲載希望月の前月20日頃  
文字数：日本語⇒500文字程度  
英 文⇒250word程度

写真：できればデジタル画像が望ましい  
送付：郵便、Fax、E-mailにて事務局宛送付

## ◆新入会員紹介◆

### 法人会員

内田写真株式会社  
代表取締役社長 内田 昌彦  
関東営業本部長 内田 真一郎  
デザイン室 係長 木田 則子

### 個人会員

杉本 三佳 豊中市  
吉富 茂隆 和泉市  
堤 政夫 豊中市

(敬称略)

### 家族会員

美村 美紀 大阪市

## 投稿規定

大阪日米協会の会報誌への投稿(寄稿を含む)規定は次の通りです。

1. 投稿の原稿は日本語と英語でお願いします。
2. 投稿頂いた原稿は返却しません。但し写真やイラストはご指示に従い返却致します。
3. 投稿された原稿の選択と原稿の短縮や修正は大阪日米協会の判断にお任せ下さい。
4. 投稿される原稿は社会的・文化的・芸術的・国際的など、本会の目的に適う内容をお願いします。
5. 投稿者の中から抽選で粗選を差し上げます。発送をもって、発表に代えさせていただきます。

## 編集後記

(Notes)

3月、4月は行事が目白押しで、それらの内容を詳しくお伝えできないのが残念です。しかし、どの行事も大盛況で、たくさんの方々にお越し頂き、とても嬉しく思っています。能楽ワークショップでは、若い演者の情熱に胸打たれるものがありました。伝統を伝えていかなければならない難しさも実感させられました。大相撲では、ワッツさんの次から次へと湧き出てくる知識に感嘆しました。日本人が頑張らないといけませんね。京都の遠足では千年の歴史を目の当たりにし、悠大な時の流れを体感させられました。(EM)





# News Letter



Vol.5

## 大阪日米協会 / JAPAN-AMERICA SOCIETY OF OSAKA

1-6-20, Morinomiya Chuo, Chuo-ku, Osaka 540-8508, Japan ☎ SAKURA COLOR PRODUCTS CORP. Tel:06-6910-5595, Fax:06-6910-8837  
http://www.jaso-1946.com E-mail:jaso@craypas.co.jp

### Noh-gaku Workshop March 11

For the 4th event of the Society's activity titled "Explore the Roots of Japan", we had a special workshop for the guide to Noh-gaku which is rather kept at a distance for us. Young Noh performers from the Kanze school, explained about masks and costumes, demonstrated actual dressing, and initiated the practice of singing "Utai" prior to their own performance. The 16th Master of Okura School of Noh, Genjiro Okura performed 'Kotsuzumi' (hand drum) creating the world of mystery. The place was crowded with over 80 participants exceeding the quorum, who jointly gave their very favorable comments.



### Mystery World Close to Me

Shoshichi Nakanishi (Nishinomiya)

I attended "Noh workshop" held at AIOI-RO established 180 years ago in front of Osaka Tenma shrine. I was excited to learn Noh-gaku which was the most unfamiliar classical accomplishments for me. Though I have accepted it to be too ceremonious, young Noh performers explained each professional part in very relaxed atmosphere with actual performances. The mystery world was felt to be close to me, especially after demonstration of dressing gorgeous Noh costumes and practice of Kotsuzumi and Yohkyoku. Noh was supporting Japanese culture as the accomplishments for Samurai society together with Gagaku for the ancient court society. A round of applause should be given to young Noh performers who are devoting themselves to absorb its tradition and handing it down to the next generation. I also appreciated President Nishimura and JASO staffs who planned this evening workshop.

### Enjoyed Musical Play of Japanese Make

Yasuyo Ueda (Nara Sango cho)

I have felt Noh is difficult for me who had little chance to touch classical accomplishments. But this time I enjoyed "musical play of Japanese make" as it was not so formal as the stage and our seats were on the same level. I thought Noh became very familiar to me after my first experience of live 'Utai' practice as well as hearing explanation about 'Kotsuzumi' and presentation and demonstration of Noh masks and costumes dressing before my eyes. The performers explained that Noh consisted of half players and half audience so that it implanted a richer imagination seeing only the dance to Utai and Hayashi accompaniments without having any special stage settings. In that sense, I appreciated the receptive manner of the audience which was very awarding. I was really impressed by the performers who introduced the Noh culture with its 650 years history and to the Japanese customary respect for courtesy extended widely to the primary schools and various communities. Thank you very much.

### Spring Sumo Watching & Talk by Ms. Watts March 27

After we enjoyed Ms. Katrina Watts' talk about Sumo at Hotel Nankai on March 27, we moved to Osaka gymnasium to watch the Spring Sumo. It has now become an annual event of JASO since we invited Ms. Watts 3 years ago. Her talk has been very popular, which helped it to become very popular with the participants exceeding the quorum of 20 members. She has quite extended knowledge of Sumo teaching us all about Sumo's charm including how to enjoy it, about the Sumo wrestlers' profile and the point of each Sumo technique. The day of our Sumo watching was very much enjoyed by all.



### Spring Day Trip ~Yomei-Bunko•Shoren-in•Shogunzuka~ April 9

Thanks to the late arrival of the cherry blossoms season this year, we could go around Kyoto (Yomei-Bunko, Shoren-in & Shogunzuka) in full bloom of cherry blossoms on April 9 (Sat.). We received many very early applications including 'cancel waiting'. Two big busses were fully booked. Yomei-Bunko is the library of Konoe Family, the head of the five regent families, where lots of rare treasures from each generation are collectively preserved. We, separated in two groups, inspected "Mido Kanpakuki" originally authored by Michinaga Fujiwara and vivid colorful picture scrolls which were never imagined were drawn 200 years ago, and etc. with explanation ably given by Mr. Nawa the Chief Librarian. Shoren-in was visited after lunch being one of the five Kyoto Monzeki temples and known as the Awada Imperial Palace. A brief explanation was given by the Diaconate Mr. Takagi. We explored inside the palace and the elegant garden. We then went up to Shogunzuka which is a detached grounds of Shoren-in and enjoyed a panorama view from Mt. Hiei extending to Osaka within our vision of 270 radius. It was the finest weather and we were quite satisfied with the Kyoto visit with cherry blossoms.



## Upcoming Events

May 14, 2005 (Sat.)

JASO & JBSK Joint Golf Competition at Kobe Golf Club  
Kobe Golf Club is the birthplace of golf and JBSK is in charge this time.



Last Year Participants



Last Year Champion

June 7, 2005 (Tue.)

Theater Party of "Mamma Mia" by Theater Shiki Co.  
After taking dinner followed by Shiki staff's commentary, we will move to the theater and enjoy its stage show.



July 22, 2005 (Fri.)

The 2005 Annual General Meeting & Party at Rhiga Royal Hotel



## Mark Chandler of San Francisco City Hall in Osaka

Mark Chandler, Director of International Trade and Commerce of San Francisco, participated in the Industrial Scholarship Center (ISC) Invitational Program on tourism made possible by the Osaka Chamber of Commerce and Industry. Ways to increase Osaka's attractiveness were discussed with members from government and business sectors. During his stay, Mr. Chandler visited the Entrepreneurial Museum of Challenge and Innovation, Namba Parks, National Museum of Arts (Osaka), and other newly opened tourist facilities. The Osaka- San Francisco Sister City Association held a welcome party for Mr. Chandler where members such as the Osaka YMCA and Osaka Confectionary Junior Club who encourage citizen-level international exchange were present, and plans for the 50th anniversary of sister city relations in 2007 were discussed. The Osaka- San Francisco Sister City Association is looking for new members to help commemorate the 50th anniversary.



## Photograph Exhibition of Ambassador Baker

From February 16 to 25, photograph exhibition 'Ambassador Baker's Japan' was held at the 1st floor atrium of NHK Osaka. 37 photographs featuring 'Japanese nature, animal, landscape and people' were exhibited all taken by Ambassador Baker when he visited the various places within Japan since being posted in July 2001. The opening ceremony commenced at 5:00pm with the past JASO President Katsuo Inabata representing JASO (current chairman of Inabata & Co., Ltd) giving his greetings to the attendees. Unfortunately Ambassador Baker was not present but his video message was played instead. He said in his message, "Through my camera, I learned Japan which I could not see just as a diplomat." During the exhibition period, there were about 1,000 daily visitors, totaling 10,000 and more throughout the period.



## Member's Column

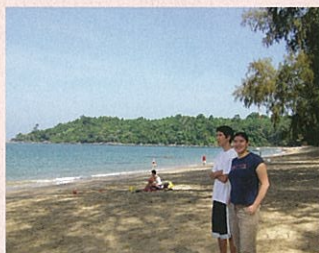
Contact : Secretariat, Osaka City Sister City Network  
TEL : 06-6772-9670 FAX : 06-6772-9790  
<http://www.sisterc.net/SanFrancisco/>



Mrs. Yumiko Almasov  
(Nishinomiya)

### Sumatra Tsunami Experience on December 26, 2004

Our whole family was vacationing in Khao Lak, Thailand last Christmas holidays. In the morning of December 26 when the big tsunami hit, we were on our way to the Similan Islands, some 70 km away from Khao Lak, in a group of 50 tourists. When we could see the islands, the skipper of our launch suddenly announced, "The island coast was damaged by a big wave, so we will have to wait here for a while." As we did not know the tsunami occurred then, we were still in a happy holiday mood, eating watermelon and pineapple, or swimming around the boat. Finally, the guide said that the tour was cancelled and we started back to the pier we left, but it was so severely damaged that we had to wait sometime longer on the ocean and were rescued by a Thai Navy ship. Just before sunset we reached the completely deserted pier. We walked through the port village in the moonlight before arriving at a small resort hotel, where we waited for further rescue while making a bonfire. Military trucks arrived and took us to Lam Kaen temple nearby. There were a lot of tourists and the Thai people were already at the temple. We stayed there the whole night and watched more and more rescued people arriving to the temple as time past by. After eleven at night, one satellite telephone was set up to make it possible to make calls inside Thailand. Next morning foreign tourists started to call their embassies. While waiting to use the telephone, I chatted with various people. A mother and her son from Fukuoka had seen a huge wave through the window of their bungalow and rushed into the bathroom and climbed on to the roof and moved to a wall next to it and hung to a palm tree right next to the wall to escape from tsunami. An American couple who had gone diving found the water muddy and took the diving boat back to the beach without knowing about the tsunami. On the way, they rescued a honeymoon couple and a dog, and found their hotel totally destroyed. I still feel sorrow and pain for the Dutch brother and sister of my son's age we met at the shelter. Later I found out that they went to the same school as my son and their father was still missing. My turn to call came, so I called the Japanese embassy in Bangkok to ask how we could go home without passports, air tickets, or money but the embassy staff did not understand the situation and gave me the answer, "Please come to the embassy in Bangkok." How were we going to get there when it would take 50 minutes from Khao Lak to Phuket by car and another 50 minutes by airplane to get to Bangkok? "Near noon, tourist buses provided by the Thai government started to move tourists from the shelter to Phuket airport. Then in the afternoon, we saw bodies of tsunami victims gathered and lined up for burning at the temple. With the help of many people, we arrived at Phuket after sunset. The hotel my friend in Bangkok arranged for us was gorgeous. I talked with my family in Japan by phone, took a bath, and became scared after I first saw the TV showing the whole story of the damage of the seashore where we had stayed. We had gone to Thailand for our honeymoon, and after more than 20 years we visited again with our children to experience the worst natural disaster in recent history. The last night in Bangkok when we had dinner with my friend who helped us to escape from Khao Lak, she said, "Please visit Thailand again!" I hope it will be soon when I can frankly say, "I will visit Thailand again." And my sincere and deepest condolences for all those who lost their lives in the Sumatra tsunami.



Mr. Tomohide  
Miyasaka  
(New York, USA.)

### National Parks of the United States

The Yosemite, Grand Canyon and Yellowstone National Parks are very well known and one cannot forget to mention these parks when talking about popular attractions in America. However, are you aware that a total of over 50 national parks exist here in the United States? Each park has its own unique characteristics. The beauty that nature has created over thousands of years is absolutely breathtaking. The wild animals and blooming flowers are truly impressive. In the old diary of mine, I have a little memo that I must have written down when I visited the Grand Canyon about 20 years ago. I recall what Theodore Roosevelt said about the Grand Canyon which I quote herewith. "Leave it as it is, you can not improve it. The ages have been at work on it, and man can only mar it. What you can do is keep it for your children, children's children and for all who come after you." After being dazzled by the magnificent site, I remember reading this quote and realizing how valuable this site was and how important it was to preserve it so that our children and our grandchildren can enjoy the beautiful site. I have lived in the United States for over 15 years but have only visited merely 10 of these remarkable national parks. During your next visit to the United States, I strongly recommend that you include these national parks as candidates for your itinerary.

### Soliloquy

I would like to express my appreciation to our many members for their participation in the 'Noh-gaku workshop' held on March 9, and felt relieved to hear from them that it was very good. Its attractiveness seems to come from the performers, who are young and cute, according to the majority of attended members' comments. At the time of Sumo watching, Ms Watts told us that Sumo was a religion and this point was so fresh in me that I saw a new meaning in Sumo. Thus while attending various events, I can find very suggestive opinion through talks with you, which may be a privilege attached to my position as the President.



## Flow of News Letter to be published

Publication	Editorial Meeting	Dead Line of Contribution
End of Even Month ex. April 28	Early Even Month ex. April 8	Around 20th of odd Month ex. March 22

Dead Line of Contribution : 20th day of previous month for planned publication  
Number of words : Japanese ⇒ about 500 characters  
English ⇒ about 250 words  
Photograph : Digital picture if possible  
Dispatch Method : Mail, Fax or E-mail to JASO office

## New members

### Corporate Members

**Uchida Photography Co., Ltd.**  
President Uchida, Masahiko  
Director Uchida, Shinichiro  
Manager Kida, Noriko

### Individual Members

Sugimoto, Mika  
Yoshitomi, Shigetaka  
Tsumumi, Masao  
Mimura, Atsuhiko  
Iizuka, Shuzo  
Toyonaka  
Izumi  
Toyonaka  
Osaka  
Nishinomiya

(No Prefix)

### Family Members

Mimura, Miki Osaka

## Contribution rules

### Contribution rules on the JASO News Letter

The following are the contribution rules to the JASO News Letter.

1. We would appreciate it, if you would write your manuscript both in English and Japanese.
2. The contributed manuscript will not be returned to you. However, we will return the photographs and illustrations if you wish.
3. Please understand that the JASO Office will judge the selection of the manuscripts among those submitted and also for editing.
4. The manuscript distributed will be in accordance with the aims of the Society, i.e., social, cultural, artistic and international events.
5. Contributors will be awarded gifts, picked by lottery.

### Notes

There were jostling events in March and April and it is to be regretted that we have not enough space to detail each one. Each event was very prosperous with a lot of people participating, which we felt very happy. Young performers' passion was so touching at Noh-gaku workshop and at the same time, we actually felt the efforts in handing down its tradition. Ms. Watts' Sumo knowledge flowing out one after another was really moved to admiration. Come on, Japanese, buckle up! Kyoto's history of 1,000 years showed up before our eyes on the day trip there and we realized the eternal current of time. (EM)